

平成23年度石巻専修大学

# 共創研究センター シンポジウム ～共生社会をめざして～

石巻市と石巻専修大学との地域連携事業による本研究プロジェクトは、3月の大地震発生から約3ヶ月半後に立ち上がった。各研究テーマは、継続課題も含め、復興や大災害に対する備えに関する貢献を目的とする議論が中心となっており、中間的、かつ、経過的内容も含まれている。今後の発展を見出す活発な議論を引き出す機会である。

開催日時：平成24年3月17日(土)・18日(日)  
会場：石巻専修大学5号館3階 5301教室



3月17日(土) 13:00～17:00

## 《総合講演》

最大の被災都市から世界の復興モデル都市石巻を目指して—石巻市震災復興基本計画と主な復興事業—  
星 雅俊 (石巻市震災復興部長)

## 第I部 《特別講演》

### 「災害とソーシャル・キャピタル(社会関係資本)」

原田 博夫 (専修大学社会知性開発研究センター/社会関係資本研究センター代表・専修大学大学院経済学研究科長・教授)

### 「東日本大震災における石巻専修大学の果たした役割～ボランティアセンターから復興支援協議会まで～」

伊東 孝浩 (石巻専修大学同窓会会長・石巻災害復興支援協議会)

### 「我が町における今次復興の本義(何を指すのか)」

須田 善明 (女川町 町長)

## 《研究紹介》

### 「石巻専修大学・東日本大震災デジタルアーカイブ制作のための調査研究」

大震災の記録や証言、それから得られる教訓、さらに地域の復旧・復興への思いや提案などをデジタルアーカイブとし、石巻圏域の復旧・復興支援の一助に繋げる。多様な形式での一次データの集積と公開に向け、予備的調査研究を行う。

代表：理工学部教授 綾 皓二郎  
経営学部教授 佐々木万亀夫 理工学部講師 川村 暁

### 「石巻地域における東日本大震災後の教育および教育支援に関する調査研究」

大震災は小・中学校の教育現場にも大きな影響をもたらした。様々な角度から震災後の地域の教育の在り方を検討し、教育力の向上に貢献するための調査・研究を行う。

代表：理工学部教授 根本 泉  
理工学部教授 山崎 省一 理工学部教授 工藤 すばる 理工学部准教授 指方 研二 理工学部特命教授 近藤 裕子

### 「東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期のボランティア・ツーリズムの円滑な実施のための条件の研究」

本震災でのボランティア参加者、団体等の性格・行動・動機、中間組織の役割、現地コミュニティへの影響等を把握することを試みる。阪神・淡路大震災など大規模な災害時に現れたボランティア活動との比較を念頭に置いて調査を進める。

代表：経営学部准教授 丸岡 泰  
経営学部特命教授 大森信治郎 経営学部助教 庄子 真岐

### 「石巻ボランティア情報センターの設立・運営による石巻市復興支援の実証的研究」

石巻市はその多くが壊滅的被害を受け、復旧復興にとってボランティア支援は不可欠となった。被災地とボランティアとのニーズを収集・整理・発信し、ボランティアの継続的な支援を可能にする情報センターの運営方法を実証研究する。

代表：経営学部教授 栗山 規矩  
経営学部教授 大坂 良宏 GREENHEART(NPO)教育ディレクター Allwright Gavin  
石巻災害ボランティアセンター・コーディネーター 田畑 豊史 石巻専修大学大学院研究生 伊藤 壽朗  
経営学部助教 舛井 道晴

### 「サテライトキャンパス企画 共生プラザ」

目的が同じであっても活動場所や活動時期が異なることが多い。震災を乗り越えて直面した課題に対して、復興・再生・創設に向かって取組む活動グループが気軽に現状を話し合い、それをどう解決すればよいのかを、石巻専修大学の教員などがコーディネートするワークショップにより、「実践的な活動の場」を提供する。地域住民の立場から望まれることに対する共同活動であります。したがって、皆様の希望によっては本プログラム以外のことも加えて参ります。なお、まちの若い方の勉強会になれば幸いに存じます。

代表：大学開放センター長 理工学部教授 若月 昇  
経営学部准教授 李 東勲 理工学部客員教授 斎藤 方達 街づくりまんぼう(株) 西条 充敏  
専修大学人間科学部教授 大矢根 淳 石巻専修大学同窓会会長 伊東 孝浩



3月18日(日) 13:00～16:40

## 第Ⅱ部

### 《特別講演》

「新しい時代を見据えた石巻市の交通体系のあり方」 阿部 等 (ライトレール 代表取締役社長)

「宮城県のカキ養殖復興への取組」 田邊 徹 (宮城県水産技術総合センター 養殖生産部)

「東海・東南海・南海の3連動地震津波に備える三重大学の減災体制構築について」

林 克己 (三重大学自然災害対策室・災害対策コーディネーター)

### 《研究紹介》

「換金作物による農地の塩害および重金属汚染の除去ならびに農家の収入確保に関する研究」

津波により農地は塩害をこうむると共にヘドロによって汚染され、沿岸の農業は壊滅的打撃を受けた。植物栽培による環境修復の手法を用い、農地回復の実現可能性を探ると共に、新たな食材の生産基地としてその農地利用する可能性を見いだす。

代表：理工学部教授 鈴木 均  
理工学部教授 福島美智子 自営業(専業農家) 小山 桂典

「東日本大震災の津波による自動車災害の発生状況調査」

今回の震災では多くの車両が津波に流され、亡くなった方も多い。車両は最初浮きそして沈む。従来水上に落下した場合、出来るだけ早く脱出することが求められていた。しかし津波の場合、最初から車を捨てるのが良いのか、どのような状態で車両から脱出するのが最良なのか？また車両はどのようなアシストを運転者に与えればよいのかを考えたい。

代表：理工学部教授 山本 憲一  
理工学部教授 川島 純一 理工学部教授 若月 昇

「有用海産微細藻類の大量培養法に関する応用研究」

数種類の海産微細藻類は細胞内に有用な化学成分を効率よく蓄積する。それらの抽出物を利用したEPA生産、バイオ燃料生産に対する期待が高い。前年度の基礎的実験成果を通して実用化に向け、現実的環境条件の中で大量培養実験を試みる。

代表：理工学部教授 佐々木 洋  
理工学部准教授 太田 尚志 スメーブジャパン社長 原 芳道 スメーブジャパン社員 平岡 正明

「牡鹿半島に生息するニホンジカの北上ルートの解明」

牡鹿半島に生息するニホンジカは、北上川を超え生息域を北へ広げている。甚大な農業被害を未然に防ぐため、シカの遺伝子解析を行い、北上する母集団の生息地を特定し、この母集団に狩猟圧を集中的に加えることにより、北上を阻止する。

代表：理工学部教授 土屋 剛  
理工学部教授 根本 智行 理工学部教授 柴田 清孝  
大日本猟友会宮城県猟友会石巻支部・支部長 永松 重信

「生活活動量を基軸とした健康介入プログラムが  
石巻市高齢者の健康管理度と自己効力感に与える影響」

石巻市と石巻専修大学による疾病予防と健康増進の連携事業として ISU 健康支援プログラムを提供する。本プログラムは運動、スポーツにこだわらずに日常生活活動の活動量を増やすことに重点を置いた健康教室であり、石巻地域における生活習慣予防施策への貢献が期待される。

代表：理工学部准教授 山内 武巳  
東北大学大学院教育情報学研究部教授 北村 勝朗 理工学部客員教授 時光 一郎  
石巻市健康部健康推進課 庄司 勝彦 石巻市健康部健康推進課 高橋 由美  
石巻市健康部健康推進課 石川 和江 石巻市健康部健康推進課 遠藤美由貴





# 石巻専修大学図書館企画展

## 「東日本大震災」を図書館資料から知る

日 時：2012年**3月1日(木)～30日(金)** (土・日・祝日は休館です)  
9:00～17:30

※石巻専修大学「東日本大震災1周年記念行事」開催のため、3月17日(土)18日(日)は、両日10:00～15:00開館。

場 所：**石巻専修大学図書館**

内 容：

### 3.11

東日本大震災以後に出版された図書資料、学術雑誌、地元新聞の展示および映像資料の上映

### ふるさと石巻

石巻の懐かしい姿に出会える図書資料の展示、および映像資料の上映

### 地震文献を探る

地震にまつわる文献資料の展示

### ふるさと、石巻の情景～石巻市門脇町・南浜町周辺～

経営学部 益満環准教授、理工学部 高橋智助教による研究製作資料の展示  
「3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型」

みなさまの、ご来館をお待ちしております。

## 石巻専修大学共創研究センター Research Center for Creative Partnerships

大学と地域自治体や企業とが“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、研究プロジェクトを企画するとともに推進して石巻地域を活力ある街にすることを目指し、研究活動しております。

上記の研究プロジェクト・サテライトキャンパス企画は、  
石巻市と石巻専修大学との地域連携事業助成金によるものです。  
連絡・お問い合わせ先 石巻専修大学共創研究センター（事務部事務課）まで  
〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1番地  
TEL：0225-22-7711（代表）FAX：0225-22-7710 kaiho@isenshu-u.ac.jp